

# 文教いしかわ

BUNKYO ISHIKAWA 石川県文教会館 2018.2 No.77



## －特集－

- 1 頁：「新学習指導要領の円滑な実施に向けて」 石川県教育委員会事務局学校指導課長 堀田 葉子 氏  
2・3 頁：「東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会とカヌー競技」  
(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会スポーツ局カヌースポーツマネージャー  
石川県県民文化スポーツ部スポーツ振興課専門員 古谷 利彦 氏  
4・5 頁：インタビュー 「人」 金属工芸作家 前田真知子 氏

## 「新学習指導要領の円滑な実施に向けて」

石川県教育委員会事務局学校指導課長 堀田 葉子



昨年3月、小・中学校の新しい学習指導要領が公示されました。この新学習指導要領は、移行期間を経て、小学校では2020年度、中学校ではその翌年度から子供たち

の学びを支える役割を担うこととなります。

今回の改訂の背景には、情報化やグローバル化といった社会変化が予測を超えて進展しているという流れがあり、特に注目されるのが人工知能(AI)の急激な進化です。今の小・中学生が社会で活躍する頃には、多くの職業が人工知能に取って代わられるのではないかと予測する学者もおり、第4次産業革命とも言われる時代の到来は、全ての子供たちの生き方に大きな影響を与えることでしょう。是非とも子供たちには、変化を前向きに受け止め、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けてほしいと願っています。

この新学習指導要領においては、これまで学校で育成してきた「生きる力」を改めて捉え直し、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」等を明確にし、社会に開かれた教育課程を目指しており、次の3点のポイントが重視されています。

- ①教科等における育成すべき児童生徒の資質・能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱で再整理したこと
- ②「主体的・対話的で深い学び」の観点から、これまでの教育実践の蓄積を踏まえて授業を見直し、改善すること(新学習指導要領で新たに規定)
- ③カリキュラム・マネジメントの確立

(新学習指導要領で明記)

これらのポイントを踏まえ、①言語能力の育成、②理数教育の充実、③伝統や文化に関する教育の充実、④道徳教育の充実、⑤体験活動の充実、⑥外国語教育の充実、⑦現代的な諸課題(情報活用能力の育成や主権者教育、消費者教育、防災・安全教育等)の充実などの観点から具体的な教育内容の改善を図っています。

以下、「特別の教科 道徳」と小学校「外国語活動」「外国語」について、簡単にポイントを記します。

### 【小・中学校「特別の教科 道徳」(道徳科)】

「特別の教科 道徳」は、今回の全面改訂を先取りする形で2015年に一部改訂され、同年4月からの移行期間を経て、小学校では2018年度(中学校は2019年度)から全面实施となります。

教科化に向けての審議過程において、他教科に比べて軽んじられていること、読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があることなどの課題が指摘されました。

このことから、今回の改訂では、年間35時間の授業を確実に確保する量的確保、そして、発達の段階に応じて、答えが1つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」への質的転換が求められています。

初めての教科書使用、評価など、学校現場のみならず社会的にも関心が高まっているところでもあり、円滑な実施に向けた準備が求められます。

### 【小学校「外国語活動」「外国語」】

中学年では、新たに年間35時間の外国語活動の導入、高学年では、これまでの年間35時間の外国語活動から年間70時間の教科として外国語科が導入されました。

中学年では、「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の三領域による音声面を中心としたコミュニケーションを図る素地を育成し、高学年では、「読むこと」、「書くこと」を加えた五領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することが求められています。

その際、コミュニケーションを図る目的を明確にし、各領域において必然性のある場面を設定するとともに、お互いに相手意識を持たせることが大切です。

校内研修等を通して、新学習指導要領について十分理解を深め、指導力向上を図るとともに、授業時数の検討及び確保、授業時間の設定、指導体制など、市町教育委員会等と連携し、準備する必要があります。

県教育委員会では、今後、今冬開催した説明会の内容等を収めたDVDを各学校に配布する予定です。各学校では、DVDを活用するなどして、新学習指導要領の趣旨等を再確認するとともに、全面实施に向けて入念な準備をお願いしたいと思います。

# 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会とカヌー競技



(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
スポーツ局カヌースポーツマネージャー  
石川県県民文化スポーツ部スポーツ振興課専門員 古谷 利彦



## 1. [#1000DaystoGo]

「スポーツには世界と未来を変える力がある」を大きな理念に「全員が自己ベスト」、「多様性と調和」、「未来への継承」を3つの基本コンセプトとして、史上最も

イノベティブで世界にポジティブな改革をもたらす大会をめざす東京2020は2017年10月28日にはオリンピックまで1000日、11月29日にはパラリンピックまで1000日を迎え、いよいよその準備が本格化してきました。

そのコンセプトの中には、日本が誇る世界最高水準のテクノロジーを競技会場の整備や大会運営に活用することやボランティアを含むすべての日本人が、世界中の人々を最高の「おもてなし」で歓迎すること、世界中の人々が多様性と調和の重要性を改めて認識し、共生社会をはぐくむ契機とすること、成熟国家となった日本が、今度は世界にポジティブな変革を促し、それらをレガシー（遺産）として未来へ継承していくことなどが含まれます。言い換えれば、日本の社会が今まで培ってきた素晴らしい価値あるものを未来にいかにつなげるか、そしてそれらを世界にいかに関心するかということになります。そのような日本という国の持つ総合力を発揮する大きな舞台まで残り1000日を切りました。そしてこの東京2020という大きな舞台は競技が多く行われる東京だけではなく、全国各地にあると思います。

## 2. スポーツマネージャーとして

私は昨年6月1日付でそれまで所属していた学校現場から、県のスポーツ振興課に専門員として出向させて頂き、さらに(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会スポーツ局に東京2020カヌー競技スポーツマネージャーとして派遣して頂きました。この出向・派遣を実現して頂いた県教育委員会、県当



国際カヌー連盟との協議

局はじめ多くの皆さんにあらためてお礼を申し上げるとともにその責任の重さを痛感しています。

スポーツマネージャーは、

IOC(国際オリンピック委員会)とIF(国際競技連盟)の承認のもと各競技種目1名が任命され、オリンピック・パラリンピックの競技運営・大会運営を統括



する役割を担います。具体的な任務・役割のうち、オリンピック・パラリンピックの運営主体であるIOCやIFまたNF(国内競技連盟)と東京都、組織委員会間の調整が最も重要です。組織委員会の職員は、本来の契約職員に加え、財務省や文科省など国の機関や東京都をはじめとした競技開催地の自治体などからの出向者、民間企業からの出向者、またスポーツ団体からの出向者などから構成されており、職員の出身母体はさまざま、現在1400名以上の職員がスポーツ、会場整備、宿泊、輸送、医療、財務、セキュリティなど52を超えるFA(Function Area 部門)に分かれて業務を行っています。私が所属しているFAはSPT(スポーツ)と言う部門で、その長が、アテネオリンピックハンマー投げ金メダリストの室伏広治局長で、私の上司にあたります。室伏局長は、日頃からカヌー競技に大変理解・支援を頂き、その人柄が多く職員から慕われています。なお、当然のことながら52を超えるFAが一丸となってイベントの成功に向けて取り組む態勢が何よりも大切になるので、外部との調整に加え、組織委員会内部のFA間の連絡調整も極めて重要になります。

一例をあげると現在はカヌースプリント会場の観客数を決定するという段階にあります。この場合、まず、競技会場を建設する責任を担う東京都がどのようなレイアウトで会場を建設するかということから始まり、仮設の座席を設置するのにどれだけコストがかかるか、競技開始時間まで観客を最寄りの鉄道駅から運び終えることができるかなどさまざまな観点から検討がなされ、大会運営の日本側の代表である組織委員会



国際カヌー連盟会長と室伏広治局長





スラローム競技場 建設現場視察

として希望する適正な数字をめぐり、IOC、IF、NFと協議を行います。また、多くの場面で、大会の重要なステークホルダーであり、大会期間中のテレビ放送などを担当するOBS(オリンピック放送機構)との話し合いが重要となります。OBSはさまざまな場面で、大変強い発言力を持ちます。IOC、IF、OBSの代表者たちは定期的に組織委員会を訪れ、我々と直に討議を行います。スポーツマネージャーはそのような場で、議長を務めることも多く、また時にはテレビ会議も行われます。

大会実施に向けて、さまざまな検討がなされる中で、大切なことは大会の理念にもある多様性の概念、共生社会の創出の面からも、パラリンピックの視点からオリンピックをとらえることにあると思います。そして、単に2020年の本番の大会を成功させるだけでなく、その競技を大会後、いかにレガシー(遺産)として根付かせることができるかが重要です。さらにボランティアを含めた運営スタッフや係員や関係者はもちろん、会場に来られる観客、そして広く言えば国民全体、いや世界中の多くの人々をより良い形でオリンピック・パラリンピックムーブメントのうねりに巻き込むことができるかが重要であると思います。その点において大切なのは、東京オリンピックは東京だけのものではないということです。石川県をはじめ、各地域で現在行なわれている選手育成や事前キャンプ誘致への取り組みもとても大切なオリンピック・パラリンピックムーブメントであり、大会の成功のためにはもちろん、そのことは日本のスポーツのレガシーの面からもとても重要であると思います。

### 3. 石川県と東京2020

石川県では、現在「石川グローバルアスリート支援事業」など選手育成の取り組みや事前キャンプ誘致などさまざまな取り組みがなされていますがこのうち、木場潟での事前キャンプについて紹介したいと思います。

東京2020におけるカヌースプリント競技は、2020年8月3日より8日まで、東京湾に浮かぶ人工島にある「海の森水上競技場」で行われますが、メダルを狙うような主要国のいくつかは、競技



三味線を体験するNZL選手

会場とは別の場所で、事前キャンプを行います。このうち、多くのチームが事前キャンプ実施場所として希望しているのが、小松市の木場潟です。なぜ多くのチームが木場潟を希望するのか、それは、世界レベルの大会を開催した実績と施設の充実ぶりに加え、県と小松市が一体となって、機能的に誘致活動を展開し、地域の皆さんが心からのおもてなしで歓迎しているからです。木場潟では、まさに先に述べた東京2020の理念に沿った「石川モデル」とも言える活動が展開されています。

県当局と小松市さらに協会や地域の皆さんのおかげで、昨年6月末のニュージーランドの事前キャンプは大成功でした。強豪国のニュージーランドはオリンピックの際に日本をアウェイと思わずホームと思えるようにと3年前から計画的に事前キャンプを企画しましたが、彼らが2週間の合宿で競技力の向上を図れたことにはもちろんですが、温かいおもてなしを受け、素晴らしい日本の文化に触れることができたことを大変喜んでいました。

また、昨年11月からはリオパラリンピックのメダリストであるブラジルの選手が2か月以上にわたり、日本代表選手たちと合同練習を行いました。彼は、秋から冬にかけての寒い時期にもかかわらず、「もっと石川にいたい、帰国を先延ばししたい」と述べていました。ニュージーランドチームとブラジルの選手の事前キャンプを通じた交流がもとになり、石川県・小松市とニュージーランド、ブラジルのそれぞれの関係が、海外選手と住民の交流を促す政府の「ホストタウン」に認定されるに至りました。このことはまさに東京2020の理念が目指すところにあります。

### 4. 「持続可能な五輪」モデルに

IOCは東京2020を将来にわたる「持続可能な五輪」のモデルにと願っています。また、東京2020は日本の文化・美徳を世界に発信する最高の舞台です。このような中で、組織委員会はもとより、石川県をはじめとした各地域が担う役割にはとても大きいものがあります。私自身、石川県と組織委員会そして世界のカーヌーフファミリーとの良き架け橋となれるようしっかりと取り組んで参りたいと思います。



Go For 2020! Graphics ~ Hanabi ~  
東京2020大会まであと1000日。

大会エンブレムを構成する45個の四角形が花火に変身し、色とりどりに花開き、エキサイティングに光を放つ。年齢の幅を超えて愛される花火をモチーフにして、エンブレムがダイナミックなビジュアルに変化することで、2020年の本大会までの期待感が加速します。



## 金属工芸作家 前田真知子さん

金沢市出身。石川県立工業高校工芸科卒業後金沢美術工芸大学工芸家彫金コース卒業。同大学院美術工芸研究科彫金コース修了。1999年国際瀧富士美術奨学金 奨励賞受賞。2006年日本伝統工芸展本展初入選。金沢を代表する伝統工芸「加賀象嵌」の重鎮である中川衛氏に師事し若手作家として現在活躍中。

インタビュアー 文教会館 館長 宇都宮 博



館長 象嵌の道に入ったきっかけを教えてください。  
前田 小さい時から絵をかくことが好きで建築の仕事をやっている父親の影響もあり、県立工業へ進みました。高校へ入って伝統工芸を一通り触れる機会がありました。その中でアイデアを思い浮かべるよりも手を動かすことが好きだということがわかりました。絵が得意だったため先生の勧めで、美大受験コースを選択し、金沢美術工芸大学へと進みました。大学では江戸時代の超絶細工が好きで彫金に魅力を感じ、彫金コースの担当教官が中川衛先生で、初めて「象嵌」という伝統技法があることを知りました。そこで中川衛先生から、銅板に銀をはめることを教えてもらいました。初めは、どういうふうによればいいのかもわからず、いわれたまま、彫って、埋めて、磨きました。色揚げをした瞬間とても感動しました。銅の色が赤く変わり、銀が際立って見えました。その輝きに魅了されて今も制作をしています。

### ～美しき金沢の伝統の技・加賀象嵌～

館長 中川衛先生は2004年に人間国宝に認定されましたよね。加賀藩伝統の技法と現代的な作風で金工の世界に新風を吹き込んだ方ですね。ところで、「象嵌」って漢字も難しいし、「『象嵌』って何のこと」と聞かれませんか。

前田 そうなんです。絵を描いたように思われたり、何でこんなに高いの？と思われたりします。

館長 「象嵌」の理屈がわからないから。溶接みたいな、ロウづけみたいな、イメージで思われるのでしょうか。金属に金属を嵌め込んでいることはあまり知られてないのでしょうか。

前田 はい、「象」は「かたどる」、「嵌」は「はめる」という意味で、ベースがあって、彫ってベースと違う素材を入れれば全て象嵌となります。木工象嵌、金工象嵌、陶象嵌といろいろありますが、加賀象嵌は金属の表面を彫り、できた溝にほかの金属をはめ込んでいろいろな模様をつくり出す技のことを言います。

館長 象嵌の工程を教えてください。

前田 まず、表面に溝を彫り、溝を広げます。そこに別の金属を嵌めてたたきこみ、その後表面を磨いてき

れいにします。嵌める金属は火であぶりますので、膨張しますが、たたいた衝撃でしまり、接合されます。金沢は金属象嵌を得意としていて、固い金属に柔らかい金属を嵌め込むことは基本的で簡単ですが、中川先生は固い金属に固い金属を嵌め込んでいるところが素晴らしいです。

館長 象嵌の発祥を教えてください。

前田 トルコが世界最古で、紀元前3000年ごろから始まったと言われています。日本には5、6世紀の古墳時代に外国から伝わってきています。金沢では江戸時代に歴代の藩主に守られながら、職人たちが「鐙」などの武具を制作し加賀象嵌の礎を築きました。

館長 「鐙」は加賀象嵌の代名詞ですね。その卓越したデザインの斬新さと豪華さに加え、絶対外れないという技の入念さは有名ですね。加賀象嵌の材料の種類についても教えてください。

前田 金・銀・銅がありますが、他に加賀象嵌には欠かせない「色金」があります。「赤銅」という銅に金を少しだけ加えた合金で黒紫色のものや「四分一」という銅と銀の合金で約4分の1が銀のためこのような名前がついています。銅の割合を増やせば、灰色から黒色がかかったグレーになります。作品の表面の油を除去するのに大根おろしで洗い、着色するときの表面の色がくすむのを防いでいます。これが、大根でないとう失敗するのですよ。人参じゃダメなんですよ。昔の人が大根に気付いて始めたのですが、こういう先人の知恵は大切にしないといけないと思います。また、誰が「象嵌」という技に気づいたのか、なぜ創ったのだろう、と考えることが好きです。

館長 「象嵌」を創り出すには無限の努力が潜んでいるのでしょうか。加賀象嵌は希少工芸といわれていますが、加賀象嵌に携わっている若手作家はどれくらいおいでなのでしょうか。



前田 昭和の戦後以降の金沢では後継者が少なく技の継承が心配されてきました。実際に20年前は象嵌をやっている人はほとんどいませんでした。現在は5人程度だと思いますが、貴重で価値のある工芸だと思いますので加賀象嵌の魅力を多くの人々に届けたいと思っています。

館長 加賀象嵌に流儀はありますか。また、日本では



他にどのような象嵌の産地があるか教えてください。

**前田** 加賀象嵌の主流は、嵌め込んだ紋金を平らに仕上げる「平象嵌」です。見えない部分に技を凝らす、奥ゆかしい美学です。日本では京都の京象嵌、熊本の肥後象嵌が有名で高岡でも多く作られます。

## 象嵌は道具づくりから

**館長** 象嵌作品を作るときの道具は何を使うのですか。

**前田** 地金の表面にタガネという専用の鑿のみとそれを打つ金槌を使っています。自分の技量に合わせて自分で道具を作ります。タガネは焼戻しをしてあります。そのように道具づくりから始めて金属工芸に慣れていきます。



**館長** 焼をいれたり戻したり難しいですね。香合の作品も全体の形から作るのは大変ですね。どれくらいかかるのですか。



**前田** 2、3週間かかります。

**館長** 時間をかけて手掛けたものは珠玉の作品ですね。見せていただいた香合やアクセサリーは女性作家ならではの繊細

な技術でモチーフにされている文様も素敵ですね。象嵌の中で得意な分野は何ですか。

**前田** 「四分一」のグラデーションを使っただけの華でしょうか。時の流れがありますが、やりたいことや成長していくものも時間がたっても変わらない美しさを感じたいと思っています。

## 象嵌の普及のための活動

**館長** 象嵌関連での新幹線効果はありましたか。

**前田** ありました。2年前は金澤町屋職人工房東山をやらせていただいたのですが、お客さんが増えました。そのときの体験型ワークショップが好評で今でも関東圏でやっています。石川県のふるさと納税の品物にもなりましたし、JRのTRANSCENTRALの冊子にも掲載されました。これもいい影響がありました。

**館長** 前田さんは県立工業高校の工芸科で2年前から教えているそうですね。

**前田** はい。造形コース2年生を対象に、銀や銅の象嵌を施した真ちゅうのボタン作りに取り組みました。若い人たちが加賀象嵌に興味を持つきっかけになってほしいと思っています。

## 伝統工芸を志す者の課題と抱負

**館長** 芸事は精進しても伸びないときがありますよね。そういう時期をどう克服しましたか。

**前田** 大学に入ってから、ひたすら制作しなくてはだめだという思い込みがあり、一つのことにめり込みすぎていました。美大では、伝統工芸は技術よりも創るコンセプトやデザインの面白さが追求されて、私のやり方が否定されている気がしました。自分で新しいものを創ることが苦手で苦しかったです。そこで、意図的に遊ぶときをつくってあまり思い詰めない、そうすると楽になって仕事に集中できるようになりました。大学で非常勤講師として指導する立場となりましたが後輩に指導するのが苦しかったです。その中でやれることからやりたいと思い、象嵌のアクセサリーから始めてようやく方向性が定まりました。また、中川先生だけではなく他の先生に職人のあり方を習いにいきました。坂井紹聖先生や東京や高岡の先生の作品への取り組み方や向き合い方の姿勢を学ぶことによって変わったと思います。どのように克服したかと言われても、あまり考えないようにしたと言えいいのでしょうか。

**館長** 考えていないことはなく、いろいろな先生方の技法を自分なりに咀嚼して取り入れているのだと思います。昔の象嵌の作品を見て、自分で出来ない部分を努力してできるようにしていく、前田流として自分なりの技法を編み出しているのだと思います。前田さんは「なぜだろう。どうしてだろう。」という気持ちを常に持ち、それを克服していくモチベーションが高いのだと思います。本当に、前田さんは明るく勢いがあり、素晴らしいですね。今後の抱負をお聞かせください。

**前田** 今、加賀象嵌の知名度が上がってきていて、東京でも体験型ワークショップをしています。そういった活動で金沢の工芸、金工の文化の復旧、活性化が少しでも図れたのではないかと思います。将来は作家として自立し、お世話になった金美や県工の先生方に恩返しをしていきたいです。工芸科の生徒が減ってきているという現状の中で、私たちの世代が、作家として生活している、得意分野を生かしている姿を若い世代に見てもらい、工芸石川を支える人材を一人でも多く育成することが私の目標です。

**館長** 前田さんのように好きなことで生活が成り立つ姿は後進への道しるべとなりますね。ありがとうございました。これからの活躍を心からお祈りしています。



## 事業報告

## 第30回 いしかわ県民陶芸展

期間：平成30年1月20日(土)～28日(日)

今年も、県内の陶芸愛好家の皆様から数多くの力作が寄せられました。作品は一般86点、青少年133点、招待作品2点の合計221点にのぼり、出品者は5歳から89歳と幅広い年齢層にわたりました。

審査員の先生からは『作品からメッセージが伝わるものが多くなった。特に青少年は、鑑賞側がイメージを膨らませてみる事ができるユニークな作品がある。』との感想をいただきました。

会期中1千名余りの方々にご鑑賞いただくことができ、盛況のうちに幕を閉じました。ご出品いただいた皆様、ご来場いただいた皆様、運営を支えてくださいました皆様方、誠にありがとうございました。

## いしかわ県民陶芸大賞

## ☆石川県教育委員会賞 2点



## 水樹 岸田浩嗣(七尾市)

## 審査員寸評

形に対して施釉の感じは最高の出来ですね。特に釉の厚みはプロ級です。焼成中には、祈っている作者の姿まで目に映ります。



## フクロウファミリー

岡島喜久子(能登町)

## 審査員寸評

審査員の目を留めた、技法的にも大変な時間と根気が感じられます。



## 絵付け大皿「龍」

坂谷圭悟(県立加賀高校)

## 審査員寸評

龍の表現の中で、特に目と鼻の元気さはうまいですね。

## 審査員特別賞 3点



## 花器

## 「連山の雪どけ」

辻本弓子(能登町)



## 青磁蓋付壺

下倉 健(金沢市)



## 花畑

川端望美(県立工業高校)

## ☆文教会館理事長賞 10点

- |                    |                |
|--------------------|----------------|
| ・練り込み花びん           | 上田美千代          |
| ・錦秋の皿              | 犀川はつ江          |
| ・灰釉扁壺              | 篠原 久司          |
| ・碧明                | 額 直美           |
| ・(鳥2対)羽ばたき         | 能登 邦男          |
| ・九谷色絵陶板「椿」         | 廣田 伽厘          |
| ・「ハロウィーンの不思議な夜」    | 大下 瑠己          |
| ・「Merry Christmas」 |                |
| ランブシェード            | 清水 美成          |
| ・奇妙                | 清川 光希          |
| ・共同制作              | 石津 諒 太田 駿 斎藤 碧 |
| 青掻き落とし時計陶板「flow」   | 中谷真緒 西田美桜 松本啓太 |

## 「いしかわ教育ウィーク」関連行事

期間：平成29年11月1日(水)～7日(火)

教育資料ロビー展「文教会館所蔵「修身」教科書と「道徳」のあゆみ展 ～時代を映す「修身」「道徳」の変遷～」

当財団が所蔵する教育資料約5万点のうち、明治期から現代に至るまでの教科書は現在約5,700点あります。その中から、今回のロビー展では「修身」の教科書・「道徳」の副読本を中心に展示しました。通知表などの展示もあり、期間中多くの方にご観覧いただきました。道徳教育の変遷を知っていただくとともに、教育資料収集整理事業への関心と理解を高めていただく機会となりました。

★当財団所蔵の教育資料は地下資料室で閲覧できます。事前に文教会館 TEL 076-262-7311までお問い合わせください。なお、蔵書リストは当館ホームページからダウンロードしてご覧いただけます。



## 教育史セミナー開催

## 演題「学習指導要領の変遷とアクティブ・ラーニング」

教育ウィーク中の11月2日(木)、当館4階大会議室において中山修氏(元県立金沢泉丘高等学校長)にご講演いただきました。中山氏が体験談や今後の教育についての提言をされ、約40人の参加者が熱心に聞かれていました。





事業紹介

教育資料収集整理事業 文教会館教育資料ロビー展のご案内

当財団では、教科書や教育物具・教育文献等の県内の貴重な教育資料の収集保管展示を行っています。その一環として、当館の1階ロビーでは、年間を通して、収集資料や県立学校の特色ある教育活動を紹介しています。

平成30年度は、19回のロビー展（県立学校50校の出展）を予定しています。当館のロビー展が県民の皆様にとって、教育に対する関心と理解を深める機会となれば、幸いです。

いつでもお気軽にお立ち寄りください。

**平成30年度 教育資料ロビー展（予定）** 場所：文教会館1階ロビー 入場無料

No.	期 間	展 示 名	内 容
158	4月	文教会館収蔵資料公開展	平成29年度の収集資料
159	4月	学校の一年をふり返る	H29年度の県立学校等の刊行物(学校新聞・生徒会誌等)
5月～3月 特色ある学校の活動（50校予定）			
160	5/8(火)～20(日)	県立宝達高等学校	宝達（たからたち）を育む教育活動
		県立羽咋工業高等学校	学校活動紹介
		県立七尾特別支援学校珠洲分校	学校紹介
161	5/25(木)～6/5(火)	県立金沢二水高等学校	金沢二水高校の教育活動
		県立工業高等学校	学校紹介
		県立田鶴浜高等学校	看護師・介護福祉士への道
162	6/9(土)～24(日)	県立金沢泉丘高等学校	石川県立金沢泉丘高校 課題研究紹介
		県立羽咋高等学校	羽咋高校紹介
		県立鹿西高等学校	鹿西高校紹介
163	6/28(木)～7/10(火)	県立小松高等学校	SSH・NSH課題研究紹介
		県立金沢辰巳丘高等学校	大きな明日へ
		県立医王特別支援学校	学校紹介
164	7/14(土)～29(日)	県立金沢西高等学校	金沢西高校紹介
		県立門前高等学校	門前高校の取り組み
		県立七尾特別支援学校輪島分校	学校紹介
165	8/2(木)～14(火)	県立鶴来高等学校	鶴来高校の紹介
		県立七尾城北高等学校	七尾城北高校創立70周年～学校紹介と近10年の歩み～
		県立穴水高等学校	キャリアコースの取り組み（地域との連携による学習）
166	8/18(土)～9/2(日)	県立錦城特別支援学校	錦城特別支援学校 作品展示
		県立七尾特別支援学校	学校紹介と作品展示
		県立金沢錦丘中学校	学校紹介
167	9/6(木)～18(火)	県立大聖寺高等学校	大聖寺高校紹介
		県立いしかわ特別支援学校	いしかわ特別支援学校 私たちの挑戦
		県立盲学校	学校紹介
168	9/22(土)～10/8(月・祝)	県立加賀高等学校	加賀高校紹介
		県立金沢商業高等学校	金商デパートの歩み
		県立七尾東雲高等学校	七尾東雲高校の取り組み
169	10/12(金)～24(木)	県立加賀聖城高等学校	錦城山プロジェクト
		県立金沢向陽高等学校	学校紹介
		県立志賀高等学校	学校紹介
170	11/1(木)～7(水)	「いしかわ教育ウィーク」関連行事	
171	11/9(金)～20(火)	県立金沢伏見高等学校	学校紹介
		県立内灘高等学校	特色ある教育活動
		県立明和特別支援学校	明和特別支援学校の紹介
		県立ろう学校	学校紹介
172	11/23(金・祝)～12/6(木)	県立小松工業高等学校	小松工業高校の活動
		県立寺井高等学校	生徒作品展示と学校紹介
		県立能登高等学校	能登高の魅力紹介
		県立輪島高等学校	学校紹介
173	12/11(火)～24(月・振)	県立小松商業高等学校	学校の概要
		県立金沢桜丘高等学校	金沢桜丘高校学校紹介
		県立金沢北陵高等学校	金沢北陵高校の取り組み
		県立七尾高等学校	いしかわニュースーパーハイスクール・スーパーサイエンスハイスクールの活動について
174	1月	いしかわ県民陶芸展	
174	1/30(火)～2/11(月・祝)	県立小松明峰高等学校	小松明峰高校学校紹介
		県立松任高等学校	学校紹介
		県立翠星高等学校	翠星高校の活動
		県立津幡高等学校	学校生活・部活動の紹介
175	2/15(金)～26(火)	県立大聖寺実業高等学校	地域と連携した教育活動
		県立小松特別支援学校	学校紹介 作品展示
		県立小松瀬領特別支援学校	小松瀬領特別支援学校の紹介
176	3/2(土)～14(木)	県立金沢錦丘高等学校	錦丘高紹介
		平成30年度文教会館のあゆみ	

ロビー展の様子



県立工業高等学校



県立大聖寺実業高等学校



県立七尾特別支援学校輪島分校



県立松任高等学校



県立田鶴浜高等学校

★ロビー展に出展を希望される学校や団体は、文教会館までお問い合わせください。

TEL 076-262-7311

★これまでのロビー展の様子は当館ホームページからご覧いただけます。

教育資料ロビー展 検索

平成30年度 文教国際理解講座のご案内 -ネイティブスピーカーによる異文化理解講座-

講座	内容	曜日	講座時間 (100分)
英米文化 初級	挨拶程度の会話をしよう (英検3級程度)	木 木	10:00~11:40 18:30~20:10
英米文化 準中級	英語で簡単な会話ができるように (英検準2級程度)	火 水 水 木	18:30~20:10 10:00~11:40 18:30~20:10 10:00~11:40
英米文化 中級	英語で日常の会話ができるように (英検2級程度)	火 水 木	10:00~11:40 10:00~11:40 18:30~20:10
英米文化 上級	日本語同様に会話ができるように (英検準1級程度)	火	18:30~20:10
韓国文化 初級	ハングルや韓国文化に親しむ	水	18:30~20:10
中国文化 初級	中国語(標準語)や中国文化に親しむ	水	19:00~20:40

実施期間：平成30年5月～平成31年3月  
 対象：教職員・一般・高校生  
 定員：1講座20名程度  
 受講料：年額36,000円(年35回)  
 (教材は実費負担)  
 応募期間：平成30年3月10日(土)～4月10日(火)  
 ※応募期間が過ぎても定員に空きのある講座には途中入会ができます。



英米文化 講座の様子

申込方法：文教会館までお問い合わせください。  
 ※当館のホームページから申込書をダウンロードできます。

文教国際理解講座

外国の言葉や文化を学ぶ  
 楽しいひとときです。  
 ぜひお楽しみください!

平成30年度 文教アートウェイブのご案内 -演劇・演奏会・リサイタル等にご利用ください-

文教アートウェイブ事業では、地域文化の振興を図ることを目的に、演劇や演奏会等の公演を希望される方に利用料と冷暖房費を無料でホールをお貸ししています。(照明設備費等有料)。リハーサルを含む3日間(連続)までご利用できます。

公演ご希望の方は文教会館事業課までお問い合わせの上、お申し込みください。

【平成31年度公演 募集期間】 平成30年5月1日～9月30日



H29金沢放送合唱団演奏会

<今後の公演予定>

※公演の日時等は変更になる場合がございます。

石川県立金沢辰巳丘高等学校合唱部演奏会 ◆入場料：一般700円	平成30年3月24日(土) 18:00～(開場 17:30)
石川県立金沢伏見高等学校吹奏楽部 第5回定期演奏会 ◆入場無料	平成30年3月25日(日) 14:00～(開場 13:30)
石川県立金沢泉丘高等学校合唱部 第9回定期演奏会 ◆入場料：一般500円	平成30年3月31日(土) 14:00～(開場 13:30)
金沢弦楽合奏団 第47回定期演奏会 ◆入場料：1,000円	平成30年5月12日(土) 18:30～(開場 18:00)
金沢室内管弦楽団 第32回定期演奏会 ◆入場料：1,000円	平成30年6月10日(日) 14:00～(開場 13:30)
ジュニア・ピアノ パレエ Summer ファンタジー ◆入場無料	平成30年7月16日(月・祝) 15:00～(開場 14:30)
金沢高等学校吹奏楽部 サマーコンサート ◆入場無料	平成30年7月21日(土) 18:00～(開場 17:30)

★応募や公演予定の詳細は、当館ホームページからご覧になれます。公演申込書もダウンロードできます。

平成30年度「教育文化研究会」参加募集のご案内 ※参加ご希望の方は、文教会館事業課までお問合せください。

	研究会名	定員	年会費	内容	日時
I	もっと知りたいアジア	10名	5,500円 全11回	アジアの地理、歴史、時事問題に関心を寄せ、ときにはビーズやアジア料理なども楽しむ	第2土曜日 14:00~16:00
II	源氏物語を楽しむ	10名	11,000円 全22回	『源氏物語』の原文をはじめ、さまざまな文献にあたり古典の奥深さを味わう	第3・4土曜日 10:00~12:00
III	茶道入門教室	10名	11,000円 全22回	初心者のための茶道入門。お茶のいただき方、簡単な手前、作法を1年間で学ぶ(流派：表千家)	第1・3月曜日 12:00~16:00
IV	近世芸能研究会	15名	15,000円 全30回	漢詩・短歌・俳句をとおして詩吟を探求する	第1・2・3木曜日 18:00~19:00

※文教国際理解講座・文教アートウェイブ・教育文化研究会は、「いしかわ県民大学校」の連携講座です。

